

**製品名: CTPS ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09513**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	67kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CTPS1
別名	CTPS1; CTPS; CTP synthase 1; CTP synthetase 1; UTP--ammonia ligase 1
遺伝子 ID	1503.0
SwissProt ID	P17812
免疫原	抗血清はヒト CTPS 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 60-109

**背景**

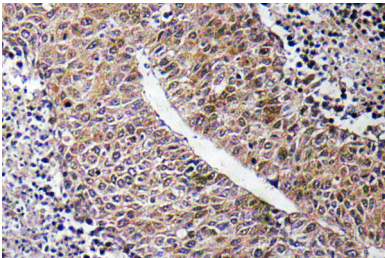
この遺伝子は、UTP（ウリジン三リン酸）から CTP（シチジン三リン酸）への触媒的変換を担う酵素をコードしている。この反応は、リン脂質と核酸の生合成における重要なステップである。このタンパク質の活性は免疫系において重要であり、この遺伝子の機

能喪失は免疫不全と関連付けられている。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2014年7月]、触媒活性:  $ATP + UTP + NH(3) = ADP + \text{リン酸} + CTP$ 。、酵素調節: GTP によって活性化され、CTP によって阻害される。、機能: L-グルタミンまたはアンモニアを窒素源として、ATP 依存性の UTP から CTP へのアミノ化を触媒する。、経路: ピリミジン代謝; de novo 経路による CTP 生合成; UDP からの CTP: ステップ 2/2。、類似性: CTP 合成酵素ファミリーに属します。、類似性: グルタミンアミドトランスフェラーゼ 1 型ドメインを 1 つ含みます。、

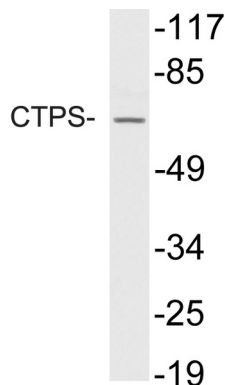
## 研究分野

ピリミジン代謝;

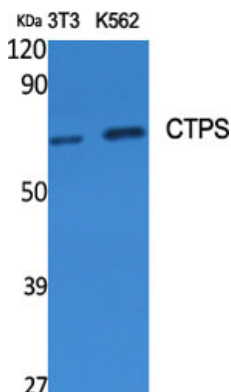
## 画像データ



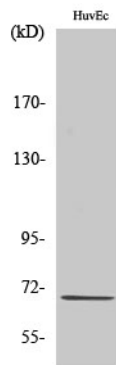
パラフィン包埋ヒト肝癌組織における CTPS 抗体の免疫組織化学分析。



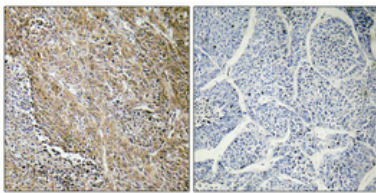
CTPS 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解液のウェスタンブロット分析。



CTPS ポリクローナル抗体を 1: 500 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



CTPS ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた HuvEc 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。